

情報連絡員からの報告（要旨）

《製造業》

食料品製造業

1. <青森県 乳製品 >
生乳引き渡し価格の値上がり等に関わる牛乳の小売価格の値上げが行われ、価格は10%~12%台の上げ幅となり、懸念された11月の牛乳消費量は概ね10%減の着地見込みである。
2. <山梨県 水産食料品 >
ギフト関連商品の売上は前年を下回ったが、コロナ規制緩和で人流が活発となり、居酒屋・ホテルでの業務用商品は、需要が増えていることから、売上は前年同月比11%増加となった。
3. <滋賀県 めん類 >
原材料、包材、燃料の高騰が価格に反映できないスーパー等と取引のある組合員は、大変厳しい状況にある。
4. <島根県 水産練製品 >
業務需要、観光需要が回復。気温も低下し製品の荷動きは良くなってきている。しかし量販店ではマスコミ等の値上報道があり、消費者の買う商品に対して選別が始まっている。
5. <愛媛県 海産物加工 >
包装資材・調味料・光熱費・原料代他、あらゆるものが高騰している。鰹やサバなど高値の状態であり、煮干も不漁で各社値上げを発表しているが、それでは追いつかない状況である。
6. <沖縄県 パン >
売上高は増加するも、収益の改善には至っていない。価格変更等を行っているが、円安の影響で原材料、資材、光熱費、輸送費が高騰しており不十分な状況である。

繊維・同製品製造業

7. <福島県 ニット >
秋冬物の受注生産、納品で忙しくなっている。梅春物の受注も始まり、同時進行となっているが、人材不足によるリンキング工程の遅れが悩みとなっている。
8. <茨城県 袋物 >
先月と状況が変わり、発注が止まってしまった。発注者の春~夏物の製品企画が、材料費の高騰により、様子を伺っているからなのだろうか。今後の仕事量に影響が出る可能性が高い。
9. <石川県 ねん糸等 >
燃糸は経費の3~4割を電気代が占めているため、電気代上昇は苦しい。収益悪化あるいは赤字になる企業もあり、廃業する企業が出てきている。
10. <京都府 染色整理 >
人流の回復により諸催事は行われているものの、和装需要については停滞している。諸物価の引上げもあり、高価な着物を買って求める動きは相対的に低調となっている。
11. <広島県 繊維工 >
原綿相場は下がってきているが、販売状況が悪化し11月も売上等が前年対比減少傾向にある。加えて、電力・燃料コストの上昇により、今後の損益への影響が一層懸念される。
12. <熊本県 ニット製品 >
円安、光熱費等により収益が圧迫されている。メーカーである組合員も価格転嫁の対応を行っているが、厳しい取引が多いとの声が上がっている。

木材・木製品製造業

13. <北海道 一般製材 >
製材市況は、建築材、産業用資材共に、ここに来て価格は横ばいから弱含みの状況にある。カラマツラミナーについては、価格が大きく下げられたが、その後は大きく下がっていない。
14. <青森県 製材 >
県内の製材所は依然として厳しい状況に変わりないが、最近、輸入材の一部において制限が解除され、本来の外材中心の新築が目立ち始めている。
15. <埼玉県 木材・木製品 >
原木の入荷量は相変わらず低調である。無理して高値材を購入して対応しているが、それでも生産量（ダウン）の調整をせざるをえない状況である。

16. <新 潟 県 製材 >
木材の価格上昇は以前に比べ落ち着いてきたが、他資材の値上りが止まらず厳しく簡単には価格転嫁が出来ないため、利益が取りづらい状況である。
17. <香 川 県 家具 >
材料価格高騰を受け、7月～10月に製品価格の値上げを行った結果、予想通り受注は減少気味であり、特にネット取扱は価格帯が合わず、売上減少幅が大きい。
18. <宮 崎 県 製材 >
原木は安定気候により出材量も順調となり、相場も4m材を中心に強含みで推移している。一方、輸出材は中国経済の低迷により、競合する燃料用向けも集荷価格を引き上げている。

紙・紙加工品製造業

19. <茨 城 県 段ボール >
受注数量は前年同月並みであり、年末の忙しさがコロナ禍前に戻りつつある。ただ、12月から主原料が値上がりするため、今後の収益状況が心配され
20. <愛 知 県 段ボール >
全国旅行支援のおかげで引き続きお土産、ギフト関係が好調である。シーズン物もバレンタイン関係の引き合いがあり、順調な動きとなっており、少しずつ経済が活性化してきた感がある。
21. <岐 阜 県 機械すき和紙 >
紙業業界は、引き続き業種による格差はあるものの売上高は回復、雇用状況は増加傾向にあるが、収益状況は原燃料や各種副資材価格の高騰に直面しており、悪化している。
22. <大 阪 府 製本 >
組合員企業は原油価格の高騰に伴う運送費などを製品単価に転嫁できず、また、機材関連業者からは値上げを要望され苦慮している。
23. <愛 媛 県 機械すき和紙 >
衛生用紙の国内出荷は前年同月比4.3%増、12か月連続のプラス。原燃料等のコストアップの価格転嫁（今年度3次値上げ）に対応中である。
24. <高 知 県 手すき和紙 >
まだまだコロナ禍や原材料の高騰・円安に伴い厳しい状況で、売上の伸びが鈍い状態が続いている。コロナ禍・原材料高騰・円安といつまで続くのか見当もつかない。

印刷

25. <岩 手 県 印刷・同関連 >
資材の値上げ分の転嫁が完全ではないが印刷物の需要は微増している。年末へ向けて更なる伸びを期待したいところだが、コロナ感染者の増減が気になる。
26. <栃 木 県 印刷業 >
昨年と比較すると多少引合いが増えているが民需、官公需とも低調である。材料値上り分の価格転嫁を進めている。
27. <富 山 県 印刷業 >
資材の高騰が続いている中、僅かだが価格転嫁が進み価格は上昇したが、ロットの縮小や紙離れによる受注の減少等で、収益確保は厳しさを増している。
28. <大 阪 府 シール >
前月同様のコロナ禍からの回復を背景に、食品・電気製品・化粧品・物流・医療関連等業種でラベル需要が回復、売上高は増加し業界の景況は好転している。
29. <徳 島 県 印刷 >
年末を控え、景気上向きの気配は感じられない。引き続き11月も売上高が減少する厳しい月となった。ペーパーレス化の波は着実に印刷需要を減少させている。
30. <鹿 児 島 県 印刷 >
今年も残すところあと1ヶ月となったが、例年繁忙期であるはずの年末らしくない状況である。年賀状の仕事もメールやSNSに置き換えられ、受注数は格段に少なくなっている。

化学・ゴム

31. <埼 玉 県 化学ゴム >
12月より冬季電力需要対策としての更なる節電等を実施するなど、手を尽くしている。生産に影響を及ぼさないよう対策を講じなければならない状況である。
32. <東 京 都 ゴム製品 >
前年同月比、受注量は増加傾向にある。しかし、原材料の入荷遅延などにより、予定通り生産が進まず売上に結びつかない。更に、電気代高騰により、経営状態が厳しくなりつつある。

33. <長野県 プラスチック製品 >
11月の売上は好調を維持しており、増加傾向にある。収益面は材料の値上げ等により思った程に伸びない状況となっている。価格転嫁等進めて収益性も上げていきたい。
34. <愛知県 高圧ガス >
自動車の国内販売低調に伴う生産減に加え、エネルギーコスト上昇が止まず、収益悪化が続いている。
35. <兵庫県 ゴム製品 >
コロナ禍になってから既に3年弱が経っているが、依然としてコロナ前まで回復せず弱い動きのままである。今後の為替状況や物価の推移次第では厳しい環境が続くことが予想される。
36. <広島県 プラスチック製品 >
原材料や電気代等の高騰が予想以上であり、製品単価への転嫁の難しさを危惧している。自動車関連は、半導体不足による生産減が発生し、まだまだ不透明感が強い。

窯業・土石製品製造業

37. <北海道 金属製品 >
国内造船所は鋼材価格高騰により大変厳しい環境で、加えて船舶用品の価格の上昇や納期遅延で建造工程に遅れが出る等、新造船の受注契約交渉が難航する状況になりかねない。
38. <東京都 砕石 >
製造コストが高止まりしており、厳しい状態が続いている。生産環境の悪化に販売価格の引上げが追い付かず、収益を圧迫する状態が続いている。
39. <新潟県 生コン >
令和4年11月の生コン出荷量は前年比69.9%、4月～11月までの累計出荷量では前年比104.0%となった。年間出荷予想は前年度を下回ることが想定される厳しい状況である。
40. <山梨県 骨材・石工品等 >
11月は舗装工事の完成時期であった事と渇水期工事が発注された事が要因で、売上は前年同月比10%増加したが、工事の進捗状況から今後は減少することが予想される。
41. <岐阜県 タイル >
景況感は先月と変わらない。コスト高に伴う再度の値上げについては、市場からの反発が根強く各組合員対応に苦慮している。
42. <佐賀県 製陶 >
海外向け商品やオンラインでの取り扱いは変わらず安定している。加えて、業務用食器市場の動きも活発になっているように感じる。

鉄鋼・金属製造業

43. <宮城県 機械金属 >
一部の産業を除き全体的に設備投資が落ち着いてきており、年明けから年度末にかけて受注減少が予想される。下請中小企業は価格転嫁が難しく、更なる収益悪化が懸念される。
44. <茨城県 鉄鋼 >
受注量は前年同月と同程度であった。設備関連部品・機械部品等の業種は増加傾向、自動車関連部品は落ち込んでいる状態である。好調だった建築資材は受注減少傾向である。
45. <千葉県 機械部品 >
全体的に停滞感はあるものの、自動車の復調は挽回基調で進んでいる。半導体関連・工業用マシン関係の落込み（11月、12月）の激しい状況が続いている。
46. <新潟県 鉄骨 >
鋼材価格や購入品の上昇が加工費を圧迫している。首都圏物件をメインとする大規模工場等の稼働率は高水準だが、地元物件依存の小規模工場の稼働率は低く、二極化が目立つ。
47. <京都府 金属プレス製品 >
今月に入っても厳しい状況のままである。自動車関連は、カーメーカーの動向が低調で受注も安定していない。半導体不足は、やや解消に向かっているようだが業者間のばらつきがある。
48. <大分県 鉄鋼 >
製鉄関連設備や運搬機関連部品の受注案件が増加。業務用冷蔵庫部品の落込みを他業界でカバー出来なかった為、全体として悪化。好調だった半導体業界も踊り場に入り、先行き不透明。

一般機器製造業

49. <埼玉県 一般機械機器 >
鉄鋼等の鋼材価格の原材料費は安定しつつあるが、石油精製品等製の原材料についてはまだまだ値上げ要請が続いている。諸コストの値上げを転嫁できず、収益面を圧迫している状況。

50. < 静岡県 生産用機械器具 >
材料費等の上昇は止まらない、販売価格が多少上がっているが値上げ分をカバー出来ていない。仕事量も多少は増加しているが操業度100%には至っていない。
51. < 三重県 一般機器 >
販売価格の値上げを認めていただき、材料価格の値上げをカバーできている。組合員を見ると業種により良いところと悪いところのはっきりしてきている。
52. < 富山県 非金属用金型 >
原材料を始め、電力等の経費の増額が事業収益を圧迫している中、金融支援策等によって耐えしのいでいるのが実情である。具体策もない一部の事業者は事業継続も危ぶまれている。
53. < 大阪府 印刷製本機械 >
この数か月、半導体を中心とした部材・部品不足が顕著である。また、入手可能な部品は品切れを懸念し大量発注するため、通常の5倍近い在庫が発生する等、景況は悪化している。
54. < 広島県 一般機械器具 >
スポット受注や出荷時期の変更が主要因となり、11月度の売上は前月比20%増加、前年同月比10%増加となった。今後も、自動化や工程短縮、環境規制対応の受注が見込まれる。

電気機器製造業

55. < 群馬県 電気機械器具 >
部品不足が解消され上向きになってきている。来年3月までは需要の高まりが見込まれるが、それ以降の需要の動向を不安視している。
56. < 東京都 配電盤 >
部品調達難の傾向が継続しており、短納期案件の受注は控えざるを得ない状況が続いている。本来ならば短納期、長納期でバランスをとるべきところだが、できない状態にある。
57. < 静岡県 電気機械器具 >
大型冷蔵庫は好調な販売が続いており、昨年を上回る生産が継続している。家庭用エアコンは一部の部材の調達問題があるも、生産調整を強いられた昨年から大きく上回る生産となっている。
58. < 三重県 電気機器 >
11月は受発注が15%落ち込んでおり、特に電気器具関連が落ち込んでいる。半導体関連は横ばいで推移している。
59. < 鳥取県 電気機械器具 >
業界の動向は安定的に増加傾向にあるが海外の生産活動も徐々に活発になりつつある。国内回帰で増加した生産活動も円安とのバランスで海外生産に切り替わる物も増加してきている。
60. < 長崎県 電気機器 >
来年度以降の受注量は増加してきたが、今年度中の受注量は依然伸びが少なく売上は不変である。部品の納入遅延や資材高騰に直面しているが、営業に注力し受注獲得に繋げていきたい。

輸送用機器製造業

61. < 静岡県 輸送用機械器具 >
自動車業界に於いて電子部品の供給が追いついていない状況であり、カーメーカーの生産調整が発生した。12月においても生産調整実施の予定が出ている。
62. < 愛知県 輸送機器 >
売上、前年同月比8%減。10ヶ月間続いた対前年同月比売上増は減に転じた。設備投資が冷え込んだままで、この先売上低迷が続く見込み。
63. < 兵庫県 輸送用機械器具 >
前年同月比9.0%の増収であった。今月の売上高は前月に比べ8.0%程度減収で、ほぼ横ばい状態であり、今年度の通期売上は昨年度と同額程度に落ち着きそうである。
64. < 島根県 自動車部分品・付属品 >
11月の売上額は前期比で2%の増となった。昨年は半導体不足等の影響で生産調整があり、売上の落込みが大きかったが、今年もまだその傾向は続いており、完全回復とは言い難い。
65. < 山口県 鉄道車輛・同部品 >
鉄道車両関係は順調に推移している。半導体関係は、例年の2～3倍の受注量で引き続き好調に推移の見通し。従業員確保及び技能継承に苦労している。
66. < 大分県 造船 >
先月より工事の請負金アップの見直しあり。多少とも収益状況が好転できるものと期待している。

その他の製造業

67. <秋田県 曲げわっぱ >
全国百貨店との販売や取引が主力となっている伝統的工芸品産業ではあるが、コロナ禍等により百貨店を取り巻く環境も厳しく低迷が続いており、必然的に売上も減少している。
68. <東京都 ガス圧接業 >
稼働率が急上昇している。年末に向けての動きが出てきた。しかし、材料、燃料の値上げにより、経営は苦しい状況にある。景況は好転しているが、収益状況は悪化している。
69. <神奈川県 工業中心の複合業種 >
各社差はあるが、受注は戻ってきている。しかし、原材料、原油の高騰、最低賃金の上昇により先月に引き続き収益、資金繰りは厳しい状況である。
70. <福井県 眼鏡工 >
受注は好調を持続しているが、原材料価格の上昇が続き、電力料金のアップが経営を圧迫し始めているため、産地を上げて小売側の価格転嫁を進めている。
71. <和歌山県 毛皮 >
来年の夏秋物の新色サンプルの注文が出始めてきた。12月初旬の東京レザーフェア後の動きに期待している。業況は依然として厳しいが、徐々に引き合いも多くなってきている。
72. <香川県 綿寝具 >
11月の業況は昨年同月と比べて減少した。昨年は11月から自衛隊受注の布団作りが始まっていたが、今年は原料が入ってこないため、まだ取りかかれていないのが原因である。

《非製造業》

卸売業

73. <北海道 各種商品 >
仕入れ価格上昇の価格転嫁は頭打ちで、販売価格は上昇するも粗利率は低下傾向にある。
74. <東京都 食器卸売業 >
年末需要は高まっているが、メーカー在庫品が不足しており、納期に間に合わずキャンセルとなるケースが多く発生している。
75. <山梨県 自動車中古部品卸売業 >
廃車の発生台数が少なく、競合他社との価格競争の影響もあり、前年同月と比べ売上、収益ともに▲40%となった。繁忙期である3月に期待している。
76. <愛知県 工業用ゴム >
未だに国内の自動車製造は安定感を欠き、工場の生産一時停止が発生し、その影響を受けて売上が回復しない。好調であった半導体関連の動きに悪化傾向が出ている。
77. <高知県 青果卸売業 >
当月は原価率が高く売上也伸び悩みで、売上の波はあるものの、ほぼ前年同額とあまり芳しくはなかった。
78. <熊本県 各種商品卸売業 >
建設業や資材卸は円安や原材料の高騰により仕入価格が上昇し、販売価格に完全に転嫁できておらず収益に大きく影響している。

小売業

79. <北海道 燃料 >
11月の原油価格は若干の反落状態で、元売りに対する国の補助後もSSでの販売価格は若干の値下げとなった。組合員の収支状況は量販店に引きずられ収支圧縮状態が続いている。
80. <秋田県 みやげ品 >
全国旅行支援の効果もあり、売上の前年同月比139%となった。ただし、コロナ禍以前である令和元年度の同月比較では63%にとどまっている。今後、更なる売上回復を期待したい。
81. <群馬県 機械器具小売業 >
テレビの売行き悪化に加え、冬物家電の動きも良くなく、全体的に市場の冷え込みを感じる。物価高騰が消費マインドの低下を招いているように感じる。
82. <奈良県 配置薬 >
配置薬の消費は減少が続いている。これから風邪の季節でもあるが、特に需要が増えることへの期待は薄い。また、売上減少により廃業者も出てきている。
83. <山口県 機械器具 >
11月も家電売上は低迷し、簡単なリフォームや工事の伴う照明器具、給湯（エコキュート）工事等で収益を確保している。売上は前年比95%位の水準である。
84. <鹿児島県 中古自動車 >
11月に入り、更に厳しさを増したようである。依然として、半導体不足に伴う部品供給の遅滞による長納期化等により、玉不足の状態が続いており、中古車価格が高騰している。

商店街

85. <山形県 商店街 >
11月は対前年比で一番数字（売上・客数）が落ち込んだが、この状況が続くようだと年末商戦は壊滅的な売上になる。イベント以外の日常的な賑わいが戻る気配が感じられない。
86. <群馬県 商店街 >
コロナは拡大しつつあるものの、比較的賑わいがみられる。イベントも例年並みの集客力を保ちコロナ前に戻りつつあるが、団体利用での宴会は見送られ飲食店は厳しい状況にある。
87. <石川県 商店街 >
全国旅行支援も始まり、週末は観光客も商店街に訪れていたが、平日はそれほどでもなく、物価上昇の影響もあり消費マインドが低下していると感じられる。

88. < 和歌山県 複合業種 >
物価の上昇が、仕入価格に転嫁されるケースが顕著になってきた。販売価格への転嫁のタイミングの見極めに苦労している。在庫品の値札の張替えに手間がかかり業務を圧迫している。
89. < 山口県 商店街 >
コロナ禍により生活様式が変化し、商店街の来客数が減少、前年よりも20%程度減少している。売上減少と後継者不足で12月迄に3店舗が閉店する予定。
90. < 長崎県 商店街 >
冬用の家電や衣料品等の単価が高くなるため、必然的に売上が増加する業種は多い。ブラックフライデー(11/25)から、商店街でも販促セールを実施している。

サービス業

91. < 山形県 情報処理サービス >
組合員が抱える顧客の中ではコロナ融資の返済に関して不安を持った方が多数おり、返済猶予を伸ばしても、今後の景気回復の兆しが見えないとの話が上がっている。
92. < 新潟県 広告業 >
新型コロナウイルスの影響がピークアウトし、祝日等のイベント関係の仕事も戻ってきた感じである。冬に向けて屋外の看板の変更、補修等の発注も戻ってきた。
93. < 岐阜県 広告美術 >
イベントは旅行など規制が緩和され回復傾向とは思われたが、失速感がある。コロナ禍前の水準にはほど遠く、苦しい状況は変わらない。
94. < 石川県 旅館、ホテル >
当月温泉地全体の宿泊実績は、対前年約93.9%と先月に続き昨年より減少した。また令和元年と比較すると約70.9%ほどでありコロナ禍前にはまだ戻っていない状況である。
95. < 岡山県 旅館・ホテル >
11月は旅応援割も延長され、宿泊実績人数もコロナ禍前に戻ってきているが、旅割等の支援策が終了したときの動向が読めず、不安である。
96. < 大分県 クリーニング >
11月の売上は、対前年比△15~20%であった。売上が回復せず、一方で経費は上昇し大変な状況である。

建設業

97. < 岩手県 土木工事 >
依然として公共工事の新規発注物件が少なく、民間工事も目立った物件がない。原材料価格の値上げにより、更なる販売価格の値上げが必要である。
98. < 神奈川県 管工事 >
コロナ禍中であるものの景気は上昇傾向にある。民間投資としての建物のリフォームやリニューアル工事も増えている。公共工事も含め、ライフラインの需要増加に期待したい。
99. < 長野県 設備工事 >
前月より新築住宅の着工がほとんど無い状況となっている。また公共工事の発注も停滞しており、厳しい状況に移行しつつある。物価高に加え企業間で貧富の差が拡大している。
100. < 滋賀県 総合工事 >
民間工事では、円安の影響もあり、鉄鋼製品をはじめ建設資材価格が引き続き上昇している一方で、特に既契約工事については価格転嫁が難しく収益が悪化している。
101. < 京都府 一般土木建築工事 >
各種資材は概ね確保可能になってきたが、全体的に価格は高止りしている。民間需要の停滞に加え、職人や下請業者の確保が困難な事例もあり、採算性の確保に苦労している状況である。
102. < 佐賀県 鉄構 >
鋼材価格は高止まりしており、一部材料で納期長期化が継続中である。また、副資材の価格、輸送費等関連経費の高騰分の価格転嫁に苦慮している。

運輸業

103. < 福島県 トラック >
燃料は原油価格や国の補助金等により変動するため価格が不透明であり、仕入価格が下がることを期待することはできない。一方、運賃値上げ交渉はあまり進んでいないのが現状である。
104. < 栃木県 一般乗用旅客自動車 >
街中の状況はコロナ前の9割弱ほど戻りつつあるが、タクシー全体の景気に関しては明るい兆しが見えてこない状況である。

105. <山梨県 道路貨物 >
年末に向けて荷物が動き出しているが、長引く燃料の高騰が響き、収益は回復していない。今後の感染拡大の状況によっては、今後、人手不足にも拍車がかかりそうである。
106. <福井県 物流事業 >
原油価格が少しずつ下がり始めてきたことで、軽油価格も1～2円程度下がってきているが、これまでが高価格帯であったため、高騰前に戻りつつあるといった印象である。
107. <奈良県 軽貨物 >
チャーター便は、中長距離配送が大幅に増加し売上は前年比105%程度の予測。引越し便は、単身者の引越しが非常に減少し、厳しい状況が続いている。
108. <長崎県 運送 >
11月は青果物の出荷が例年より少なく、売上が減少した。軽油価格も高止まりであり、収益は悪化している。運転手不足も深刻であり、厳しい状況が続いている。

その他の非製造業

109. <宮城県 不動産 >
賃貸マンションや賃貸アパートの給湯器の品薄状態がまだ改善されていない。コロナ禍による東南アジアの工場閉鎖により、半導体等の部品が入手できないことが主因である。
110. <千葉県 輸出入 >
成田空港の国際線旅客数が先月に比較し、1ビル、2ビル共25%ほど増えてきた。その多くは外国人客が占めており、当組合の運営店舗付近も、至る所に外国人旅行客の姿が目につく。
111. <神奈川県 歯科技工 >
前年同月より受注量は増えているが、コロナ以前までは回復していない。原材料を含め各種インフレになり経営状況は悪化している。
112. <奈良県 質屋 >
円安局面が続く中、海外からの個人旅行が解禁されて、中古ブランドバッグの需要が伸び、相場が上昇している。また、年末商戦に向けた商材仕入の時期も重なり、さらなる上昇も期待できる。
113. <岡山県 信用組合 >
コロナ禍の影響は回復基調から横這いとなり、それ以前の売上高迄の回復には至っていない。物価上昇や光熱費等の経費は依然として増加しており、資金繰りは厳しい状況が続いている。
114. <福岡県 砂利採取 >
R4年4月より価格改正を実施しているが、販売対象各地区における需要量そのものが減少傾向にあるため、業況の先行き不透明感が拭えない状況である。